

## 水道ビジョンについて

厚生労働省は、平成 16 年に今後の水道に関する重点的な政策課題とその課題に対処するための具体的な施策及びその方策、工程等を包括的に明示する「水道ビジョン」を公表しました。

その後、水道をとりまく状況は、大きく変化しました。その一つが、人口の減少です。那須塩原市においても、平成 23 年度以降減少傾向に転じています。これからは、給水人口や給水量の減少を前提に、老朽化施設の更新需要に対応するために様々な施策を講じなければならない状況になっています。

もう一つの大きな変化は東日本大震災の経験です。平成 23 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震等一連の地震は、水道に対し、広範囲に甚大な被害を及ぼしました。加えて、東京電力福島第一原子力発電所の事故に由来する放射性物質の放出も水道に多大な影響を及ぼしました。

このような状況から、水道においても、これまでの震災対策を抜本的に見直した危機管理の対策を講じることが喫緊に求められており、厚生労働省は平成 25 年 3 月に「新水道ビジョン」を公表しました。

新水道ビジョンでは、水道水の安全の確保を「安全」、確実な給水の確保を「強靱」、供給体制の持続性の確保を「持続」と表現し、これら 3 つの観点から、50 年後、100 年後の水道の理想像を具体的に示し、これを関係者間で共有することとしています。

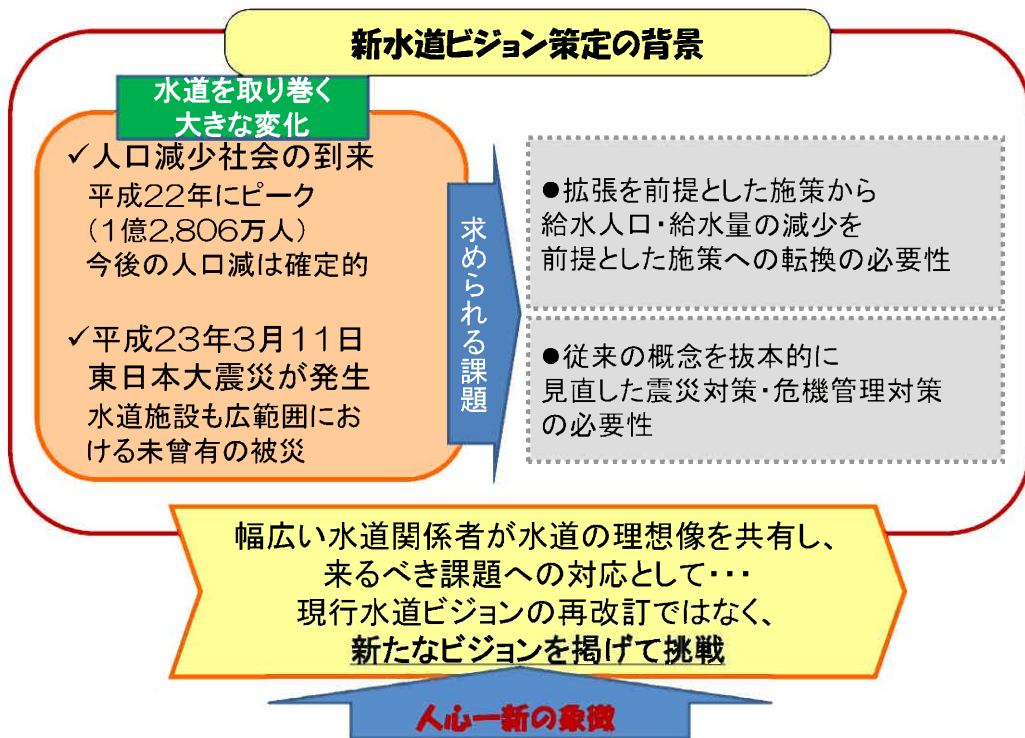


図1 新水道ビジョン策定の背景

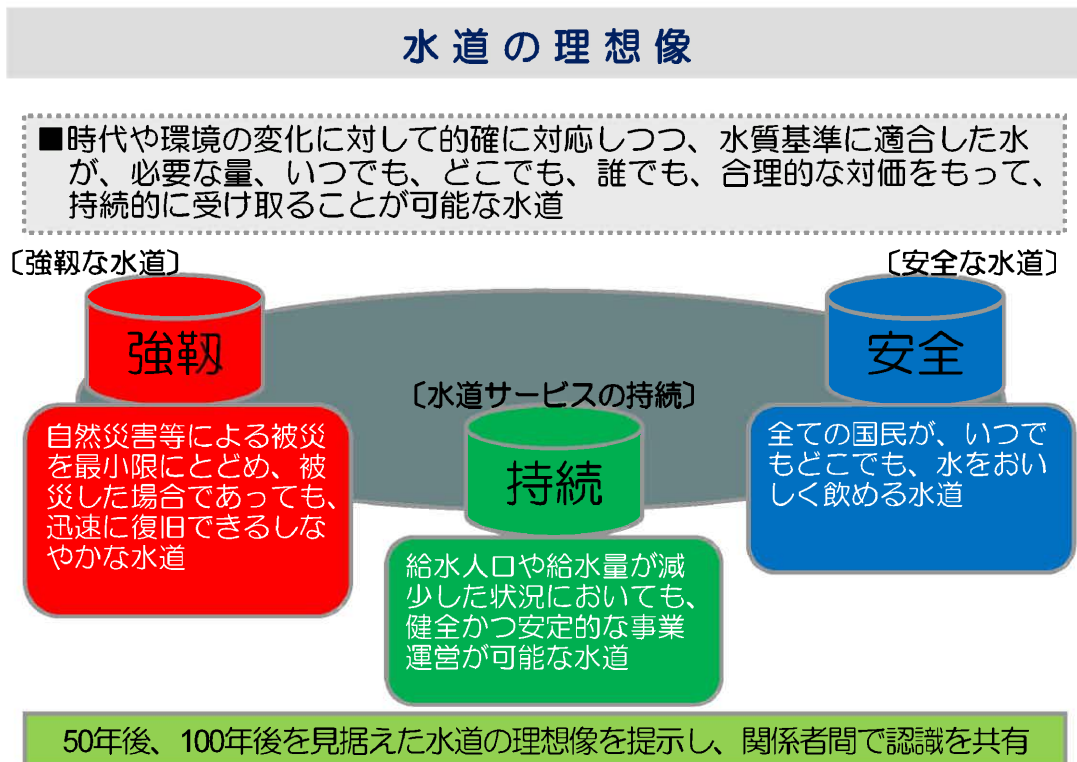


図2 水道の理想像

資料：厚生労働省健康局水道課